

# 県立醫専 決戦型で誕生へ

定員百廿名、入學は七月から

県立医学専門学校新設について、さきに鈴木内政部長、塚田教育課長が上京、文部省に認可申請書を提出折衝の結果、認可されることになった。設立手続として臨時縣庁による議決が必要なので、昨(二十八)日の縣政審議会で協議し、時局緊迫のなり縣會招集の煩を避けて三月二日午後一時から緊急縣參事會を招開、設立に伴ふ豫算、その

の設備を整備するまでには一千万円の経費を要するが、さしあたり議決を要する豫算は約三百万円である、これは附屬病院として八木協同病院の買収、仮校舎に充てる調整定所の移轉費、仮校舎、寄宿舎の改造費、その他に支出する経費である。現在縣が暫定してゐる仮校舎は、調整定所を仮校舎本部とし八木協同病院の會議室を講堂にあて、寄宿

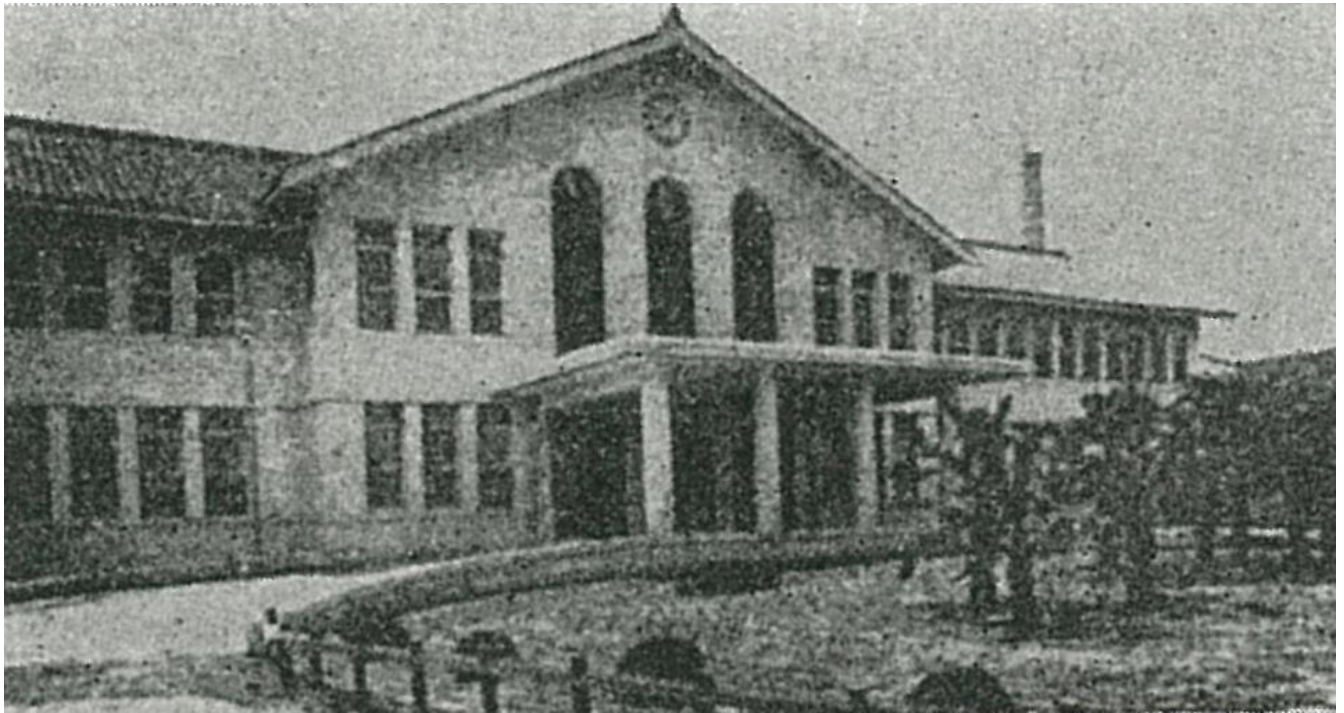
第一回入試の様子 異様に高い倍率

四千名を突破— 縣立医学専門学校の再調査 縣立医学専門学校の入學願書は二十五日をもって締切つた、受付の整理を終つたもの二千五百、未整理のもの約一千、現在三千五百ほどに達してゐる。願書は二十五日附の郵便局消印のあるもので二十八、九日までに到着するものは厚附るとしてゐるから四手をはるかに突破するものとみられ、倍率の懸絶である。なほ医専設立期成会では二十六日附で寄附理事會を招き、町村長會で寄附金三百万円調達の承認を受けたこと、八木協同病院の買収交渉経過の報告、縣會願書に対する大口寄附の調整分担などを行つた。

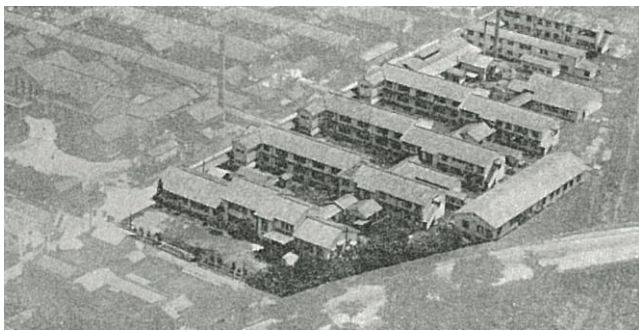
三月  
奈良縣立醫學 奈良縣立醫學  
第二次合格者 第二次檢査合格者は廿五日発表されたが、定員百廿名に対し百五十名を採用、合格者は入學許可書を交付されるが入學式は七月一日の豫定で、それまで現在出動中の工場へ引續き勤務に従事する

**第一次合格者四百六名**  
縣醫專入試  
定員の四十餘倍といふ異常な數を示した本縣醫學志願者の第一次檢査は阪大教授による特別檢査委員により慎重に檢査を進めた結果五月廿一日の結果を刊してこれと發表したが右第一次合格者は百六名で





母体となった八木協同病院



橿原療養所と橿原精神病院

奈良医大付属病院と合併し、それぞれ結核病棟と精神科病棟になった



奈良医大付属病院本館前 昭和30年代後期～40年代

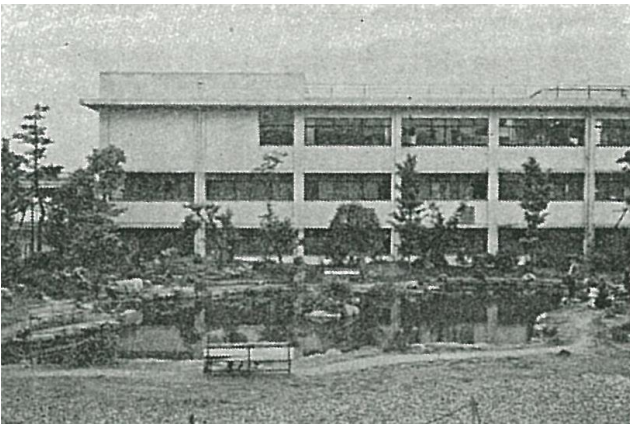




附属図書館



進学課程校舎



外来棟の北隣にあった庭園の池



基礎医学棟



大学本館